

#学校から日常にもどせ

～私がTwitterで始めたこの運動が毎日10万件以上のインプレッションとなり広がっています～

2年間に渡る新型コロナの影響で子ども達を取り巻く環境が非常に厳しい状況になっています。この間、テレビは不安を煽り続け、過剰ともいえる感染対策が子ども達を精神的に追い込み、子ども達の未来を奪ってしまいました。私はこの子ども達の危機的な状況を日常に戻すには世論を変えるしかないと考えSNSで毎日「#学校から日常にもどせ」と訴えています。

昨年度、全国で子どもの自殺者は400人を超え過去最多です。小中学生の不登校は19万人を超え過去最多です。18歳未満の子どもの児童虐待は20万5029件で過去最多です。これらは様々な要因がありますが、新型コロナの影響が大きいことは言うまでもありません。児童虐待に関しては、学校で子ども達がマスクをしているため先生が表情を読み取れないこともあり、学校からの通報での発見件数は減っています。

マスク、給食時間の黙食、ソーシャルディスタンスなどは子ども達の成長にとって弊害でしかありません。新型コロナが収束してくる中、子ども達から日常に戻してあげられるよう皆さん一緒に世論を変える力になって下さい。今のままでは子ども達の未来が本当に心配です。

⇒令和4年度当初予算の議論から県としての取組み

地域自殺対策緊急強化事業	8,164万円	若者を重点的な対象として、SNSを活用した相談体制の整備など効果的な自殺対策に取組みます。
ひきこもり対策推進事業	1,390万円	ひきこもり当事者が社会参加の最初のステップにつながるための「居場所」づくりに関する検討を行います。
不登校対策事業	5,282万円	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、不登校支援アドバイザーによる訪問型支援に取組みます。県立の教育支援センター設置に向けた実証研究に取組みます。
オンラインを活用した不登校児童生徒の居場所づくり事業	704万円	不登校児童生徒がオンライン上で安全で安心に交流できる居場所を設けます。
児童虐待法的対応推進事業	1億8,865万円	AIを活用した児童相談所の機能強化、外国につながる子どもの虐待防止、ヤングケアラーへの適切な支援を行います。

活動記録



いちみ勝之知事候補の応援



各自治体の要望対応



今年もさんまパーティー開催



諸団体の要望対応



正副議長から県民の皆さんへ動画配信



本会議場にて議長として議事進行



東京五輪レスリング金の向田真優選手に県民栄誉賞



正副議長定例会見

いながき昭義プロフィール

- 昭和47年 四日市市東坂部町生まれ（現在49歳）大池中学校・四日市高校・立教大学法学部卒業、明治大学大学院ガバナンス研究科修了
- 平成7年～10年 株式会社三重銀行勤務
- 平成11年 三重県議会議員選挙出馬（26歳）416票差で次点
学習塾・パソコン教室・NPO法人などを立ち上げ4年間生活
- 平成15年 三重県議会議員選挙 初当選以来4期連続当選
四日市港管理組合議会第45代議長（歴代最年少）、予算決算常任委員会委員長（歴代最年少）等を歴任
三重県手話言語に関する条例検討会座長など多数の条例検討会に携わり議員提案条例を制定してきた。
- 平成28年11月 四日市市長選挙出馬 落選
ユマニテク医療福祉大学 校長他、介護・医療の仕事に関わり2年間生活
- 平成31年4月 三重県議会議員選挙 5期目当選 新政みえ代表就任
- 令和2年3月 明治大学大学院ガバナンス研究科修了
- 令和2年11月 日本ソムリエ協会ワインエキスパート試験合格
- 令和3年5月 三重県議会第115代副議長就任



Dream21 vol.54

本年もよろしくお願ひ申し上げます

旧年中は大変お世話になりました。本年も変わらぬご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。昨年新型コロナの影響が大きく厳しい一年となりましたが、コロナとの戦いも2年が経ち、ワクチンや飲み薬も出来てきた中で、今年こそはコロナを特別視せず、他の病気や感染症と同じように扱うようにして、日常に戻して行かなければいけないと考えます。感染症法上の位置づけの見直しなどを国に求めて参ります。

昨年私は、三重県議会第115代副議長を仰せつかり、慌ただしい日々となりましたがよい経験をさせていただきました。任期は今年の5月までのため引き続き全力を尽くしたいと思います。

三重県は新しい一見知事を迎え、一見県政がスタートしました。現在、10年後を見越した「強じんな美し国ビジョンみえ（仮称）」と2026年の三重県政150周年をターゲットとした「みえ元気プラン（仮称）」を策定中であります。三重の未来を確かなものにするようしっかり議論して参ります。また今年、県議として私の5期目の任期の最終年となります。自分自身を見つめ直し、地域の発展、県政発展のため全力を尽くして参ります。

プライベートでは、コロナ前にハーフマラソンを2回走り、次はフルマラソンと気持ちを高ぶらせていましたが、コロナの影響でどの大会も開催されず実現出来ませんでした。今年こそは大会が開催されることを信じて、フルマラソンに挑戦したいと思っています。

本年は、コロナを完全に収束させ、皆様にとりまして実り多き、充実した年になりますことをお祈り申し上げます。



【議事堂玄関で茶柱タツさんと一緒に】

三重県議会副議長 稲垣昭義



《いながき昭義のSNSでの発信力・信頼性は圧倒的!!》

日々更新中!!

◆いながき昭義ホームページ

<http://dream-21.jp/>

これまでの活動の歴史や、活動写真、Dream21バックナンバー等ご覧いただけます。

いながき昭義



◆音声プラットフォームVoicy



<https://voicy.jp/channel/1462>

昨年は365日連続で、毎朝10分配信しました。ぜひご登録いただき聞いてください。

◆いながき昭義公式フェイスブックページ



<https://www.facebook.com/akiyoshi.inagaki.mie/>
ブログやVoicyのリンクを中心に、日々の活動報告を行っています。

◆いながき昭義YouTubeチャンネル



<https://www.youtube.com/channel/UCB1sdzQTfDE1KwqslLzj1Uw>
定期的に動画配信しています。お楽しみください。

◆いながき昭義公式ブログ「初心、継続。」

<https://ameblo.jp/dream-21/>

2007年4月から開始して、コツコツ続けています。



◆いながき昭義公式ツイッター

<https://twitter.com/dream21ai>

毎日ツイートしています。フォロワーも1万人を超えました。ぜひ皆さんフォローをお願いします。



◆いながき昭義公式インスタグラム

https://www.instagram.com/akiyoshi_inagaki/

2020年にワインエキスパート試験に合格し、ワインの魅力を中心に発信しています。



【いながき昭義公式LINEやっています】



県政情報をタイムリーにお届けしています。QRコードから、友だち追加よろしくお願ひします。





衆議院議員
岡田 克也

◆衆議院議員選挙を振り返って、 「日本には政権交代可能な政治システム が必要です!」

稲垣：昨年は衆議院議員選挙があり岡田代議士は11回目の当選をされました。おめでとうございます。まずは、衆議院議員選挙を振り返っていただけますか？

岡田：私の選挙に関しては前回並みの14万票を超える得票をいただきありがとうございました。しかし、党としてみるとかなり厳しい結果でした。野党同士の選挙区での候補者調整は必要だと思っていますが、自民党や一部メディアから共産党と一緒に政権を目指しているかのように徹底的にやられましたので、誤解を与えてしまったと思います。また、コロナが急速に収束したので、これまでの与党のコロナ対策の失態があまり問題にされませんでした。そして、岸田さんによって期待感がありましたね。しかし、やっぱり立憲民主党の力が足りなかったということだと思います。反省すべきは反省して前に向いて進まなければいけないと思います。

稲垣：代議士が常々言われている政権交代可能な政治から少し遠のいたように思います。

岡田：1回遅れましたね。自民党支持者の中にも安倍政権は相当ひどかったとの思いを持っている方はいると思いますがその受け皿を作れていません。自公と競い合えるもう一つの塊は絶対に必要です。

稲垣：私は政権交代可能な二つの保守政党が必要だと考えます。国民は大きな変革を望んでいる訳ではなく、安心して政権を任せられるかどうか見ているように思います。今回は共産党との距離感で立憲民主党に対して保守層が離れたように思います。

岡田：自民党も右から左までありますが、私たちは、良質な保守層と中間層、リベラルを包含する政党にしていかなければならないと考えます。

稲垣：私が県議会議員に当選してから15年間、三重県議会では、新政みえと自由民主党の二大会派が拮抗してお互い牽制しあい、切磋琢磨しながらいい政策論争が来ています。

岡田：三重県は理想的な形だと思います。新政みえの中には労働組合の組織内の方もいれば保守系の方もいる。国レベルで、まさに私たちが目指している政党の形です。名前は立憲民主党なのか違うものになるのかは別として、新政みえのような保守からリベラルまで幅広い考えの方が集まる政党を作っていかなければなりません。

◆台湾有事に日本はどう備える？

稲垣：台湾有事については私には気になっています。外務大臣も経験され、中国、台湾、米国とのネットワークを持つ代議士はどのように捉えていますか？

岡田：米軍のインド太平洋司令官が6年以内に中国が台湾に侵攻する可能性が高いと言いました。軍人ですから最悪の事態を想定しているものの重要な発言です。集団的自衛権があるから日本も一緒に戦うべきと威勢のいい人もいますがそう簡単ではありません。中国と戦争する覚悟を持って言っているのか？ということです。

例えば、台湾にいる日本人をどのように逃がすのかといったことも何も決まっていませんので、まずは起こりうる想定への備えを急がなければいけません。大事なことは最悪の場合に備えながらそのような事態にならない外交努力が必要です。これはバイデン政権も同じだと思います。とにかくこの3つの原則が重要です。

- ①台湾海峡問題は平和的に解決する。
- ②中国の台湾侵攻は許さない。
- ③台湾には独立は認めない。

台湾には独立派もいますが、日本、米国の立場は、そこまでいかない中でどう現状維持するかが重要です。

稲垣：日本として、抑止力としての安全保障上の備えも必要ではないでしょうか？

岡田：インド、米国、オーストラリア、日本というQUAD（クアッド）と言われる新たな枠組みはもちろんですが、英国やフランスとも一緒にやるのが重要です。

稲垣：それは台湾問題に限った場合だけでなく、アジア・太平洋全体を考えた戦略が重要ということですね。

岡田：中国の力は強くなってきているので、仲間を増やして抑止するということが重要ですね。

◆中国とどのように向き合っていくべきか？

稲垣：一方、中国とは今後どのように対応していくべきですか？冬季オリンピックがある中、米国と中国との関係悪化や、人権問題も言われていますが日本の立ち位置はどうしていくべきですか？

岡田：非常に難しいですね。日本だけではなく米国にとっても難しいですね。我々が描いていた夢、つまり人々が豊かになれば民主化も進んでいくといったものがちょっとお預けになりました。私は将来的にはそうなると思っていますが、10年、20年ではそうはなりません。その間どういう関係をつくっていくかです。経済的にはお互いが必要としています。習近平体制になって安全保障の面ではかなり覇権的な面が目立つようになりました。最悪の備えが必要だと考えます。言うべきことははっきりと言いながら、温暖化問題など一緒に取組める問題もあるので是々非々で臨む必要があります。

稲垣：代議士は外務大臣の時に、中国や米国とは定期的に外務大臣が会って話をする環境を作っておくことが重要だと言われていましたね。最近中国とそれが出来ていませんが、今の日本外交はいかがですか？

岡田：最後は人と人なんです。何があったとしても定期的に会っておくことが重要です。今、日中も日韓もその関係が途絶えていることは決まっています。会って喧嘩してもいいから定期的な外相会話は続けるべきです。

稲垣：いまの政府は、かなり保守的な方々の声に流されて、会うこともノーという感じですが、これは危険な状態といえますね。

三重県議会議員
衆議院議員

稲垣 昭義
岡田 克也

新春対談〜日本の未来を考える〜



岡田：外務大臣が中国に甘く親中のだから行かせない(笑)、こういうのはどうかと思います。

稲垣：このあたりは野党として提案をして外交戦略を示すことは出来ないのですか？

岡田：当然やります。予算委員会ですっかり議論していきます。林外務大臣は私も長く一緒に勉強会をやってきて、非常にすぐれた将来日本のトップになりうる政治家ですから関係を大事にしながらか前向きなしっかりした議論をして、日本外交を導いていきます。

◆コロナ後どのような社会を作っていくのか？

稲垣：コロナのあとどのような社会を作っていくか、今年重要な課題だと思います。一番問題なのはこの2年間で分断が進んだことだと思います。価値観の違いなど気持ちの分断と貧困の格差は更に広がったように感じます。自公政権と立憲民主党が目指す社会の違いは、このまま分断を容認するのか分厚い中間層を復活させるのかということだと思います。

岡田：分断はコロナで加速化した部分と元々そうだったものがコロナで可視化された部分がありますね。一番弱い所に最初に痛みが来ます。例えば、正規職員より非正規職員といった感じですね。それに対する処方箋を考えなければいけません。小泉：安倍政権で派遣を認め拡大してきて、今では非正規職員が4割になりました。この制度の見直しが必要です。

稲垣：働き方も多様化していいと思いますが、セーフティーネットが非常に弱いように感じます。

岡田：最近、ワーバーイーツなどの個人事業主といった働き方が増えています。例えばサラリーマンが時間を有効活用して所得を増やすといった面もあり、フレキシブルで便利との見方もありますが、保険がきかない、仕事量によって不安定であるなど、注視していかなければいけません。立法的な対応が今後必要と考えます。

◆分厚い中間層を取り戻すためベーシック インカム制度をどう考えるか？

稲垣：例えばベーシックインカム導入を検討する国も出てきていますが、このような考えはいかがですか？

岡田：全世帯にするのか高齢者にするのかによって違いますね。高齢者対象の考え方は先の自民党総裁選で河野さんが言いました。定額で7万円くらい高齢者に支給するという考えですが、河野さんも批判されたようにかなりの消費税増税が必要になります。なかなか国民の理解が得られないのではないのでしょうか？働く世帯にはベーシックインカムではなく最低賃金等の対応でいいのではと思いますが、ベーシックインカムを導入する国がいくつか出てきたので今後注視していきたいです。

稲垣：立憲民主党内でベーシックインカムの議論はありますか？

岡田：議論はしています。しかし具体的な所までは話は進んでいません。

稲垣：政権選択の選挙の時に大きく社会が変わることを国民は望まないと思いますが、政党の政権公約の違いは何だということは重要だと思います。私は分厚い中間層を作るのか競争を重視、加速させるのかは、今後の日本の形を考えた時に大きな対立軸のひとつだと思います。



岡田：そのための政策で、端的に自民党との違いを言うと税の仕組みですね。例えば最高税率を上げる、有価証券に対する課税、技術的に可能であれば総合課税化するなどを示す必要があると考えます。私が民進党代表時代に金融取引、経済取引はマイナンバーですっかり管理して、個人のプライバシーと分けて考えることとし、金融、経済取引は可視化して課税していくと提案しましたが、党の中でもまとまりませんでした。

稲垣：それは今でもまとめるのは難しいですか？

岡田：税金をなるべく節約しようとしている方は結構いらっしゃるでしょうから難しい所ですが、自民党には絶対に出来なくて国民のための改革です。もう少し調査を深めてどこかで打ち出したいと思っています。

稲垣：立憲民主党は少し小さくなりましたが、大いに議論して自民党では出来ない国民のための制度を提案して欲しいですね。

岡田：昨年の衆議院選挙で議席は減りましたが、逆風の中勝ち上がったメンバーは、地元ですっかり活動している人たちが多く、人数は減ったけど質は高いです。深い議論ができると思います。

稲垣：最後に今年の抱負は？

◆7月の参議院議員選挙は絶対に負けられない戦いになります。

岡田：まずは政治のことで申し訳ないけど、今年7月の参議院議員選挙ですね。全国的にも三重県的にも野党がここで踏ん張らなければいけません。一つの大きな分岐点になると思います。

稲垣：来年4月には統一地方選挙で私たちの県議選もありますので、そこにもつながる重要な選挙になりますね。三重県で私たちがつないできた流れを断ち切らないよう頑張らなければいけません。

岡田：正念場だと思います。

稲垣：今日はありがとうございました。

岡田：ありがとうございました。

三重県議会議員
いながき 昭義

